

薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会第6回会合の概要

平成 25 年 1 月 16 日
薩 摩 川 内 市

【ポイント】

1. 12月4日(火)に開催された上記会合において、事務局より以下の項目について説明を行った。
 - (1) ビジョン策定委員会第5回会合の概要について
 - (2) 地域との対話の概要について
 - (3) 次世代エネルギービジョン(案)について
 - (4) 行動計画(案)及び具体的事業例について
 - (5) 平成25年度予算に関する事項について
2. また、野間口委員から提出があった「次世代エネルギービジョンに関連した産総研での取り組み」についても矢部産総研理事(野間口委員代理)より紹介があった。
3. 委員からビジョン(案)の細部に至る記載内容や行動計画(案)に係る具体例など、それぞれの項目に対し多岐に亘るコメントがあった。

委員から頂いた主なコメントは以下のとおり。

1. 次世代エネルギービジョン(案)について
 - (1) 10年後、20年後もいきいきと続いているために、環境の変化に沿って見直していくことが大切であり、それにより持続可能となる。
 - (2) ビジョンを作成した後、施策の提示が継続して未来につながっていることをどこに記載するのか。また、組織的には作れるか。
 - (3) 基幹エネルギーあつての次世代エネルギーであることを踏まえ、市としてどの部分からどう取り組むのか具体化する方向を検討すべきである。
 - (4) 温度差熱利用の河川熱の潜在可能量の値が非常に大きいので、海洋都市という特徴だけでなく、河川熱の利用についても触れるべきである。
 - (5) 未来像における「関連企業(製造業、サービス業)」の立地に関して、一概に企業誘致といっても間口が広いので、どのような間口で関連企業を考えていくか検討したほうがよい。

- (6) 未来像の中に農林水産物の次世代エネルギーを活用した生産プロセスによってできた製品は一定の価値が見い出され「中心市街地等」でも広く売られているとあるが、折角なら「県外や国外」として広がりを持たせたほうが夢があってよい。
- (7) 未来像の「地域に存在する資源を活かしたエネルギーの自給自足モデルの構築」の部分に、何か展開を予測させるような記述ができないか。
- (8) 具体的未来像のスマートハウスの絵の中に、実証事業にも必要と思われる太陽光、燃料電池、蓄電池の3点を入れてはどうか。

2. 行動計画(案)及び具体的事業例について

- (1) 行動計画では市民との接点が大切であり、市民が自主的に実施していく一番よいモデルを市で構築して、普及していくこともあってよいのではないか。
- (2) 簡易な見守りの仕組みではなく、市でシステム開発に取り組み、アプリ開発まで実施してはどうか。それにより、若手のシステム開発等の雇用も生まれ、開発したシステムは市の財産となり、対外的にも売れるのではないか。
- (3) ファンドについて、市民に参加意識をもたせるような市全体で取り組んでいける位置づけで何かできないか。例えば、全員参加型、ミニ公募、市民ファンドの3段階で実施してはどうか。
- (4) 固定価格買取制度を活用したビジネスモデルを実施するのであれば、地場産業を中心に早くコンソーシアムを組んで、地域でお金が回る方法がよい。
- (5) 地域との対話の中での「街灯が少なくて暗い」という多くの意見を受けて、街灯を増やして昼間に作った電気が夜間に使われているという太陽光発電がシンボルとして市民に見えるような形を目指すとうい。

3. 予算要求に向けた基本方針と具体的な要求項目例について

- (1) 予算要求の項目など具体的になってきたので、地域の産業界も市民との体制を構築してほしい。
- (2) 「関連企業誘致に関する取り組み事例(テーマ6関連)」だけでは、企業に対するメニューとしては弱いように感じる。

4. その他

- (1) パブリックコメントを実施する際には、ビジョンは既存エネルギーとの共存が背景にあるので、脱原発がテーマでないことを誤解されないようにしてほしい。

以上